

(1)

ABSTRACT of UTILITY MODEL LAID OPEN PUBLICATION

Japanese Publication No. Showa-52-51976

Published Date: April 14/Showa 52 (AD1997)

Title of Utility Mode Joint for Furniture

Application Number Showa-50-138138

Application Date October 9/ Showa 50 (AD1995)

Applicant Seiko Co., Ltd

Inventor Kazunori Akiyama

(Abstract)

A joint for furniture comprises a receiving sleeve 4 and a connecting shaft 6 to be inserted into the receiving sleeve 4. The receiving sleeve 4 has a tapered inner face whose diameter becomes gradually large toward an entrance of the sleeve 4. A part of the connecting shaft 6 to be inserted into the sleeve 4 has a diameter being smaller than the tapered inner face of the sleeve 4. A head of the connecting shaft 6 is provided with a flexible hook 8, and the flexible hook 8 is bent so as to put into contact with the inner face of the sleeve 4 when the connecting shaft 6 is inserted in the inner face of the sleeve 4.

Fig. 1

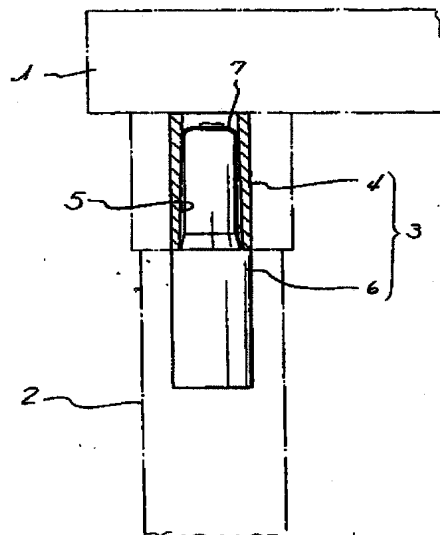
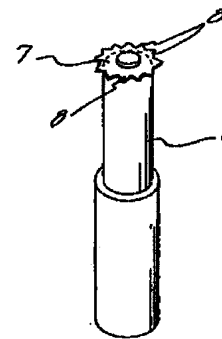


Fig. 2



①

⑨日本特許庁

⑩実用新案出願公開

公開実用新案公報

昭52-51976

⑤ Int.Cl²

識別記号 ⑤日本分類

庁内整理番号 ④公開 昭和52年(1977)4月14日

F 16 B 7/20
F 16 B 12/00

53 E 22

6473-31

審査請求 未請求

⑭家具等の連結具

⑰実 願 昭50-138138

⑱出 願 昭50(1975)10月9日

⑲考 案 者 秋山和則

枚方市長尾家具町2の3の10

⑳出 願 人 株式会社星高
同所

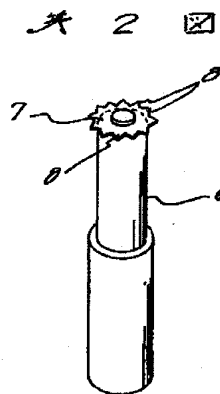
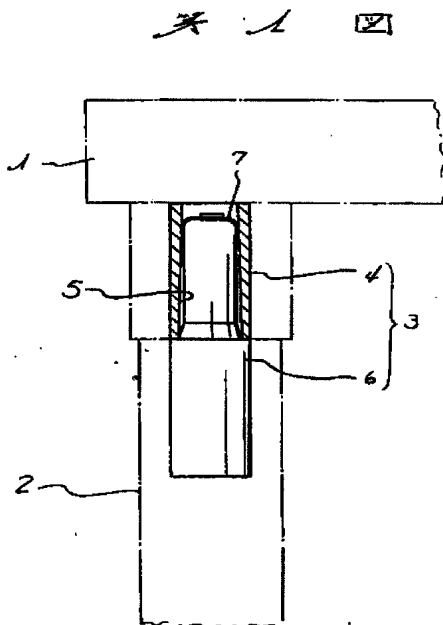
㉑実用新案登録請求の範囲

2つの連結部材に対向して取付け固定すべき受

筒4と連結軸6とから構成され、受筒4には開口が大径の連結孔5を形成すると共に、連結軸6は前記連結孔5に遊嵌する太さを有し且つ先端には、連結孔5の内面に係止する複数の鈎片8を外周に突設した鈎板7を取付けて成る家具等の連結具。図面の簡単な説明

第1図は使用状態を示す断面図、第2図は連結軸の斜視図である。

3…連結具、4…受筒、5…連結孔、6…連結軸、7…鈎板、8…鈎片。



公開実用 昭和52—151976

①



¥3,000-

実用新案登録願

昭和50年10月9日

特許庁長官 殿

1 考案の名称

カグトツ レンガツグ
家具等の連結具

2 考案者

住 所 大阪府枚方市長尾家具町3丁目3番10号

氏 名 秋 山 和 則

3 実用新案登録出願人

住 所 大阪府枚方市長尾家具町3丁目3番10号

氏 名 株式会社 星 高
代表取締役 秋 山 和 則

4 添付書類の目録

(1) 明 細 書	/ 通	3 式
(2) 図 面	/ 通	審 査
(3) 願 書 の 副 本	/ 通	

50.10.11

50-138138

明 細 書

1 考案の名称 家具等の連結具

2 実用新案登録請求の範囲

2つの連結部材に対向して取付け固定すべき受筒(4)と連結軸(6)とから構成され、受筒(4)には開口が大径の連結孔(5)を形成すると共に、連結軸(6)は前記連結孔(5)に連係する太さを有し且つ先端には、連結孔(5)の内面に係止する複数の溝片(8)を外周に突設した鈎板(7)を取付けて成る家具等の連結具。

3 考案の詳細な説明

本考案は家具、農機具或いは機械器具の如き諸々の部材の結合に使用する連結具に関する。

従来、殊にスチール製品等においては、完成された部材を一組として供給し、小売店或いは購買者がそれを組立て、製品を完成することが行なわれている。

しかし、所る部材の組立てには、通常はボルト、ナット或いはビス等の部材及びそれ等の

公開実用 昭和52—151976

締付け具を要すのみならず、組立て作業に多大の手数が掛かる不便があつた。

本考案は極めて簡単な構成により、連結に特別な部品及び締付け具を使わず簡単な操作で強固な結合を実現し得る実用上便利な連結具を提供するものである。

以下図面に示す実施例に基づき本考案を具体的に説明する。

第1図はスチール製家具の一部を示したもので、天板或いは受板等をなす平板①と支柱②との結合部に本案に係る連結具③を使用している。

上記連結具③は、平板①に取付け固定した受端④と、支柱②の端部に取付け固定した連結端⑥とから構成され、前記受端④は、開口部が大径のテーパを有す連結孔⑤を形成して連結端⑥を嵌挿すべくなす。

連結端⑥は、前記連結孔⑤に適合する長さだけ支柱②から突出し且つ孔⑤に遊嵌する太さを有すと共に、先端には鉤板⑦を取付

ける。

鉤板(7)は焼入れ鋼板等を以てなし、連結組(6)を孔(5)中へ嵌挿したとき、組(6)先端が対応する孔(5)内径よりも所定度大径の円板の外周縁に鋸歯状の複数の鉤片(8)を突設したものである。

然して、本発明連結具(3)は、受筒(4)及び連結組(6)を平板(1)、支柱(2)の要所に溶接等により一体に収付けて箱結めをし、販売に供する。

小売店或いは購買者がそれを組立てるには支柱(2)の連結組(6)を鉤板(7)側から平板(1)の受筒(4)中へ嵌挿する。このとき、前記鉤板(7)は、連結孔(5)に対し開口部では余裕があるが、深く挿込まれるにつれて各鉤片(8)の先端が孔(5)内面に沿い開口側に向けて屈曲し、各々貫材の弾性により連結孔(5)の内面に係止して一体結合し、両部材(1)(2)を連結保持するのである。

尚、図面では連結具(3)を平板(1)と支柱(2)

- 1 -

公開実用 昭和52-151976

の連結に使用したが、これに限らずあらゆる形状の部材結合に使用出来る。

本考案は上記の如く、連結孔(5)を有す受筒(4)と、先端に鉤板(7)を取付けた連結軸(6)とから構成したから、受筒(4)の連結孔(5)に連結軸(6)を嵌挿するだけで、鉤板(7)の各鉤片(8)が連結孔(5)の内面に弾圧係止し、依つて2つの部材間を簡単且つ強固に一体結合出来る実用上の効果を有す。

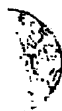
4 図面の簡単な説明

第1図は使用状態を示す断面図、第2図は連結軸の斜視図である。

(3) 連結具 (4) 受筒 (5) 連結孔
(6) 連結軸 (7) 鉤板 (8) 鉤片

出願人 株式会社

星 高



-- 4 --

公開実用 昭和52-5197

図 1

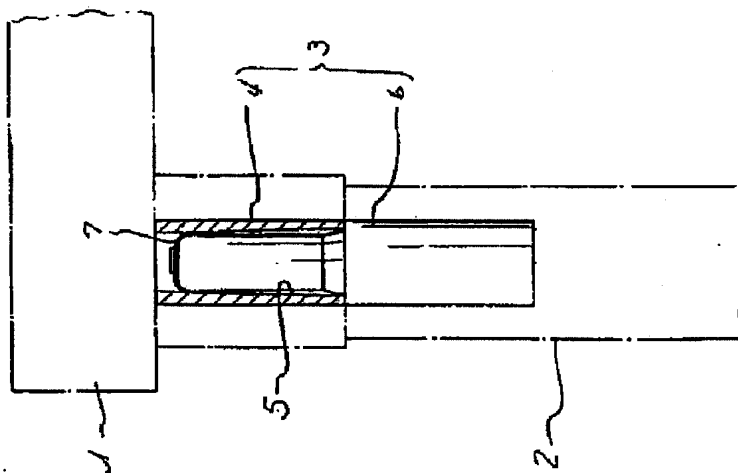
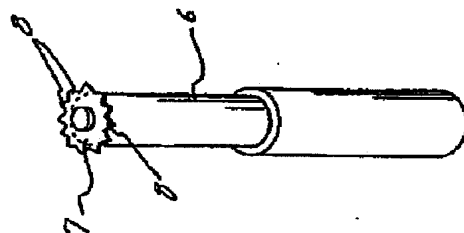


図 2



51976

出願人 株式会社 豊高